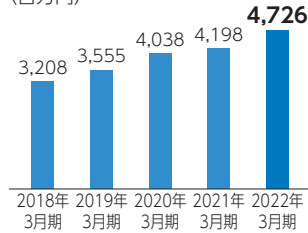


業績ハイライト

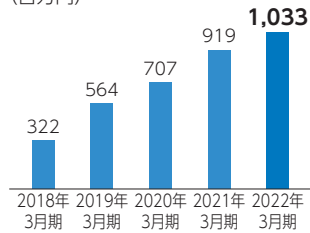
決算のポイント

- 確立した高収益モデルが発現、戦略的投資や新卒採用投資をこなし増収増益を確保
- 経常利益は前期比120.3%を達成し、過去最高益を更新

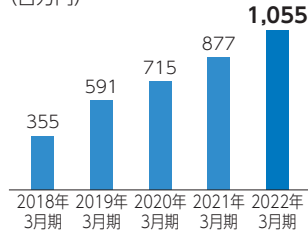
売上高 (百万円)



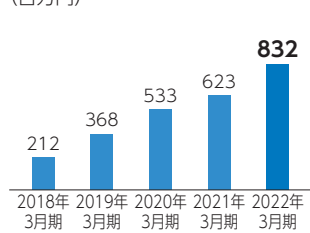
営業利益 (百万円)



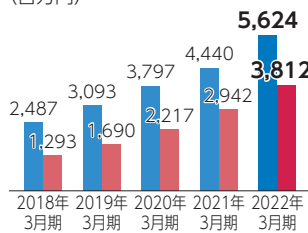
経常利益 (百万円)



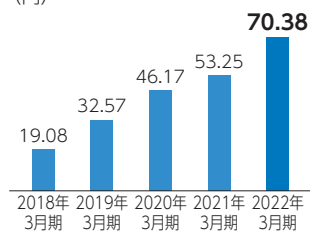
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



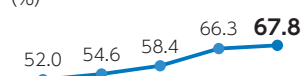
総資産 / 純資産 (百万円)



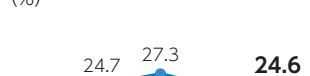
1株当たり当期純利益 (円)



自己資本比率 (%)



ROE (%)



2018年 3月期 2019年 3月期 2020年 3月期 2021年 3月期 2022年 3月期

2018年 3月期 2019年 3月期 2020年 3月期 2021年 3月期 2022年 3月期

詳細な数値情報はこちら

<https://www.ubicom-hd.com/ja/ir/finance.html>



株主各位

東京都文京区小石川二丁目23番11号
株式会社Ubicomホールディングス
代表取締役社長 青木 正之

第17回定時株主総会決議ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、2022年6月23日開催の当社第17回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

敬具

記

報告事項

- 第17期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)事業報告、連結計算書類および計算書類の内容報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。
- 会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案

定款一部変更の件
本件は、原案のとおり承認可決されました。

第2号議案

取締役5名選任の件
本件は、原案のとおり取締役に青木正之、小西彰、石原康裕、橋谷義典、伊藤俊幸の各氏が再選され、それぞれ就任いたしました。
なお、橋谷義典、伊藤俊幸の両氏は社外取締役であります。

以上

会社の概要 (2022年3月31日現在)

社名 株式会社Ubicomホールディングス
設立 2005年12月8日
資本金 788,949,440円
従業員 947名(グループ全体)
所在地 〒112-0002
東京都文京区小石川2丁目23番11号 常光ビル9階

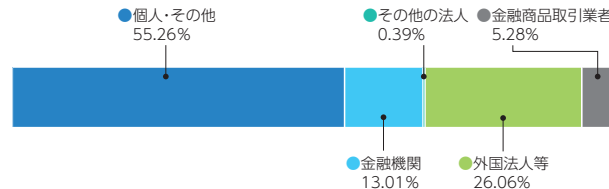
役員 (2022年6月23日現在)

代表取締役社長 青木 正之
取締役副社長 小西 彰
取締役 石原 康裕
社外取締役 橋谷 義典
社外取締役 伊藤 俊幸
常勤監査役 松本 一喜
社外監査役 大下 泰高
社外監査役 森下 志文

株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 38,400,000株
発行済株式総数 11,834,000株
株主数 2,856名

株式分布状況 (2022年3月31日現在)



(注)自己株式10,690株は、「個人その他」に106単元を含めて記載しております。

Ubicom Holdings Report

Ubicomホールディングス レポート
2021年4月1日 ▶ 2022年3月31日

Vol. 6

NEWS HIGHLIGHT ニュースハイライト

婦人科遠隔プラットフォームソリューションを手掛けるイスラエルの医療スタートアップ「illumigyn」へ出資

当社は「医療DX」を戦略領域の中核に据え、病院経営および医療サービスの向上に資するストック(SaaS)型ビジネスモデルの創出・推進に長年注力してまいりました。この度、初となる医療分野への出資であり、今後はメディカルグローバルマーケットにおける協業に注力し、新たな事業創造を図ってまいります。



『保険ナレッジプラットフォーム』において保険支払業務の一部自動化に向けたDXメニュー『ゆらぎ補正』の業務利用開始

当社の『ゆらぎ補正』は、OCR読み取り後のゆらぎを補正、医療情報を抽出し、自動的にコード化を行います。これにより保険会社支払査定担当者の査定にかかる事務負担を大幅に削減する、標準化・事務効率化ソリューションの実現が可能となります。今後もコストおよび技術面から困難とされている簡易請求の普及を推進してまいります。



産学連携で医療経営分野の人材育成を推進、ビジネス専門学校と実践型オンライン授業を実施

この度の産学連携授業では、当社レセプト点検ソフトウェア『MightyChecker[®]』の操作および活用方法の習得を通じた、医療事務と医療経営の効率化、医療機関を取り巻く現状・働き方改革・DXについて講義を行いました。今後も、メディカル領域の人材育成に取り組み、サステナブルな医療と社会に資する事業活動を推進してまいります。



当社ホームページはこちら
<https://www.ubicom-hd.com/ja/index.html>



証券コード：3937

戦略投資を前倒しで実行して
フィリピン人材の採用育成を強化。
Ubicomグループの第2成長フェーズ
を通じて今期も最高益達成を目指す。

株式会社Ubicomホールディングス
代表取締役社長 青木 正之



戦略的投資を上期に前倒しで行い
下期から投資回収フェーズに入った

最初に2022年3月期の業績についてお伝えします。新型コロナウイルスの変異株による感染症拡大やロシアによるウクライナへの軍事侵攻といった社会情勢不安、急激な円安という厳しい経営環境が続く中で、当社は2022年3月期も過去最高益を更新しました。

当社では毎年、人材採用育成等の通常投資を行っていますが、2022年3月期は、今後見込まれる旺盛な需要に対応すべく約1億55百万円の戦略的投資を上乗せして前倒しで行い、先端IT技術、AI技術およびプロジェクトマネジメントスキルを中心とした人材の育成に力を入れました。そのため下期から投資回収フェーズに入ることができ、売上高47億26百万円(前期比12.6%増)、営業利益10億33百万円(同12.4%増)、経常利益10億55百万円(同20.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益8億32百万円(同33.4%増)を達成しました。

次にセグメントごとの施策をご説明します。グローバル事業では、各業界のマーケットリーダーであるお客様との戦略的パートナーシップを推進し、顧客別売上高数億円規模のピラー顧客およびピラー候補顧客からの受注が堅調に推移しました。2022年3月期はピラー顧客が7社となり、2024年3月期の目標であるピラー顧客20社以上獲得に向けて邁進しています。中国では複数のPCメーカーの受注に成功したことで、売上損益が計画比5割以上増となりました。

メディカル事業においては、主力製品である医事課向

けレセプト点検ソフト「MightyChecker®」に加え、医師向けオーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」が、2024年4月から適用される「医師の働き方改革(労働時間の上限規制)」に対応していることも追い風となり順調に販売先を拡大しています。戦略的商品である次世代レセプトチェックシステム「MightyChecker® EX」は、「既存ユーザーの乗り換え(アップセル)×メニューの重ね売り(クロスセル)×直販」による顧客単価の向上とリカーリング(継続収益)モデルの確立に加え、大手グループ内病院の引き合いをいただくなど業績に大きく貢献しています。保険業界向けDXソリューション「保険ナレッジプラットフォーム」は、複数の生命保険会社との商談を進めており、新たなサブスク型収益源を目指します。

さらに、将来を見据えて、イスラエルのFemtech(女性の身体の悩みを解決する技術)スタートアップのillumigynに投資を行いました。この投資ではSDGs寄与だけでなく、将来のアライアンスやグローバルマーケットも視野に入れています。

第2成長フェーズに向けた
M&AやGo Global戦略を推進

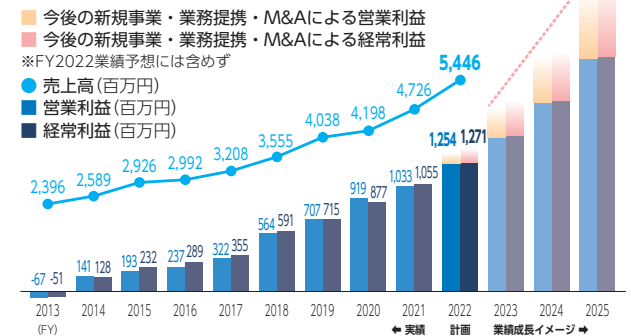
2023年3月期は利益バランスを見ながら、第2成長フェーズに向けて、グローバルマーケットを見据えた「Go Global戦略」に資するエキスパート・リソースの充実化、フィリピンエンジニアの採用育成の強化、メディカル投資戦略の強化、M&Aの実行を遂行します。ESGを意識した事業・社会・お客様の

決算ハイライト(連結)

第2成長フェーズのテーマ

- ・メディカル領域
- ・ピラー顧客+20社
- ・グローバルマーケット
- ・サステナビリティ

×M&A



持続的発展に取り組むと共に、先端技術・R&D投資、およびM&Aや提携先と一体となって成長拡大を目指す「Win-Winインベストメントモデル」を推進します。その結果、2023年3月期の業績見通しは、売上高54億46百万円(前期比15.2%増)、営業利益12億54百万円(同21.4%増)、経常利益12億71百万円(同20.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益9億25百万円(同11.2%増)と過去最高益を計画しています。

株主様におかれましては、当社の成長にご期待いただき、ご支援のほどよろしくお願いたします。

サステナビリティに関する取り組み

